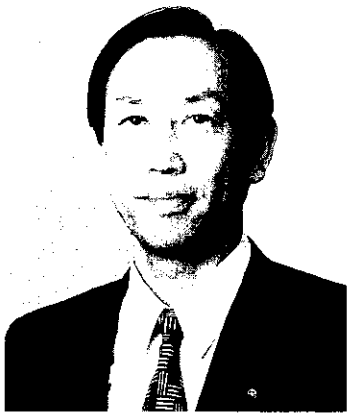
巻　頭　言



取締役
知多製造所長　山中榮輔

鋼管特集号は，1981年（昭和56年），1990年（平成２年）に引き続いて３回目の発行となる。

第１回目の発行の時期は，いわゆるシームレスブームを背景として各種鋼管製造設備の大規模な増強が相次いだ時代であった。第２回目発行の時期は，シームレスブーム後大きく落ち込んだ鋼管総需要が緩やかに回復に向かったものの，第３国ミルの台頭など供給者の増加が我が国の鋼管輸出を圧迫し始めた試練の時代であったと言えよう。

汎用鋼種分野での競争激化をうけて当社の鋼管部門は，高級化をめざして「高強度」，「高靭性」，「耐食性」を軸とした商品開発およびその量産技術の開発を強力に推進し，当時は実現困難とさえ言われた「マンネスマンプロセスによる高合金継目無鋼管の大量生産技術の確立」を達成した。特にマルテンサイトステンレス鋼管の大量生産によって，高度の耐食性を要求される油井の需要に質・量とも応えることが可能となり，お客様より高い評価をいただいている。

一方では，最近の炭酸ガス規制に見られる地球環境問題において重要なクリーンエネルギーと位置付けられた天然ガスは，今後需要が増加していくことが予想され，天然ガスの生産および輸送を担う鋼管に与えられる役割は，ますます重要となってこよう。国内においても天然ガスパイプラインが種々計画されはじめている局面において，パイプラインの溶接施工技術を始めとした総合技術が必要となってきている。

建材分野においても鋼管の役割は，最近その重要度を増しつつある。土木分野では，阪神大震災を契機とする耐震設計技術の見直しで鋼管杭の持つ性能が高く評価され，また施工条件が厳しくなるにつれて，施工の容易さや迅速性の観点からも期待が高まっている。また構造物の大型化・多様化が進むなかで，鋼管の性能に対する要求は，ますます高度化の傾向にある。

鋼管部門では，これら各分野におけるマーケットニーズに適合した商品開発や製造技術開発を通じて着実に体質改善をすすめている。本特集号は，それらの成果を報告するのにふさわしい時期に発行されたと言えよう。

本報には，論文として「高合金継目無鋼管の量産技術」および「その商品開発技術」ならびに「パイプラインにおける施工技術」の紹介を中心に，また新製品・新技術紹介として，「最近の建材分野における開発商品・技術」を中心とした構成とし，あわせて「ステンレス電縫鋼管」や「UO工場の自動化」について最近の技術を紹介させていただいた。読者のご参考となり，また忌憚ないご批判を賜れば幸甚である。